

2010年度

科目名	薬物治療学D				
担当教員	田中 静吾				
配当	薬科4			コード	12810
開期	前期	講時	月曜日2限	単位数	2
授業テーマ	【必修】 疾患と薬物治療				
目的と概要	各種疾患の症状や検査所見を含めた病態生理について概説し、治療法について説明する。授業を通じて「将来、適切な薬物治療に貢献できるようになるために、耳鼻咽喉の疾患、皮膚疾患、眼疾患、骨・関節の疾患、アレルギー・免疫疾患およびそれらの治療に用いられる代表的な医薬品に関する基本的知識を修得する。併せて、薬物治療実施に必要な情報を自ら収集するための基本的技能を身につける。」ことを一般目標とする。 (日本薬学会モデルコアカリキュラム C14(4)「疾患と薬物治療」に対応、一部 A(1)「生と死」に対応)				
成績評価法	期末テスト(70%)およびレポートを含んだ平常点(30%)によって総合的に評価する				
テキスト	スタンダード薬学シリーズ6 薬と疾病II 薬物治療(1) 日本薬学会編 東京化学同人				
参考書					
履修に当たっての注意・助言	補助教員:竹橋正則				
講義計画					
回数	授業形態	授業内容	到達目標(SBO)	コア対応番号	学習領域
1	講義	概論	1. 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療の位置づけを説明できる。	C14(2)	知識
			2. 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。	A(1)	知識
			3. 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。	A(1)	知識
2	講義	耳鼻咽喉の疾患I	1. 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。	C14(4)	知識
			2. めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)	知識
			3. めまいをきたす疾患の鑑別ができる。	独自	知識
3	講義	耳鼻咽喉の疾患II	1. 以下の疾患を概説できる。 メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎	C14(4)	知識
			2. 難聴について概説できる。	独自	知識
4	講義	皮膚疾患I	1. 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。	C14(4)	知識
			2. アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)	知識
			3. 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)	知識
5	講義	皮膚疾患II	1. 以下の疾患を概説できる。 蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症	C14(4)	知識
			2. 火傷の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	独自	知識
6	講義	眼疾患I	1. 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。	C14(4)	知識
			2. 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)	知識
			3. 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)	知識
7	講義	眼疾患II	1. 以下の疾患を概説できる。 結膜炎、網膜症	C14(4)	知識
			2. 糖尿病性網膜症について説明できる。	独自	知識
8	講義	眼疾患III	1. 色盲について説明できる。	独自	知識
			2. 屈折異常(近視、遠視、乱視)について説明できる。	独自	知識
9	講義	骨・関節の疾患I	1. 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。	C14(4)	知識

			2. 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)	知識
			3. 骨折および脱臼について説明できる。	独自	知識
10	講義	骨・関節の疾患II	1. 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)	知識
			2. 以下の疾患を概説できる。 変形性関節症、骨軟化症	C14(4)	知識
			3. 関節痛をきたす疾患を鑑別できる。	独自	知識
11	講義	骨・関節の疾患III	1. スポーツ外傷について説明できる。	独自	知識
			2. 脊髄損傷と神経症状について説明できる。	独自	知識
12	講義	アレルギー・免疫疾患I	1. 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。	C14(4)	知識
			2. アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)	知識
13	講義	アレルギー・免疫疾患II	1. 自己免疫疾患(全身性エリテマトーデスなど)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)	知識
			2. 臓器特異性自己免疫疾患と全身性自己免疫疾患を列挙できる。	独自	知識
14	講義・演習	アレルギー・免疫疾患III	1. 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)	知識
			2. 後天性免疫不全症かかえる社会問題について討議する。	独自	態度
15	演習	総括とまとめ	1. 眼疾患、耳鼻咽喉疾患について、病態と薬物治療について理解している。	C14(4)	知識
			2. 皮膚疾患、骨・関節疾患について、病態と薬物治療について理解している。	C14(4)	知識
			3. アレルギー・免疫疾患について、病態と薬物治療について理解している。	C14(4)	知識
授業方法					
一般目標	学習方法	場所	教員数 (補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
C14(4) A(1)	講義または演習	講義室	1(1)	スライド、配布資料など	90分 x 15回